



公開シンポジウム
「アンデス文明初期の神殿と権力生成」

【日時】2016年 1月30日(土) 10:30～19:00 [開場 10:00]
1月31日(日) 9:30～12:00 [開場 9:00]
【会場】キャンパス・イノベーションセンター東京 1F 国際会議室
東京都港区芝浦3-3-6 (丸の内線・芝浦駅北口徒歩約1分) 都営地下鉄有明線・三田駅 三田駅から徒歩5分
【定員】100名(先着順) 【参加費】無料 申し込み不要
【主催】科学研究費補助金基盤研究(S)「権力の生成と変容から見たアンデス文明史の再構築」(代表:関雄二)
【協力】古代アメリカ学会

公開シンポジウム

「アンデス文明初期の神殿と権力生成」

日時：2016年1月30日(土)～31日(日)

場所：キャンパス・イノベーションセンター東京

主催：科学研究費助成事業 基盤研究(S)
「権力の生成と変容から見たアンデス文明史の再構築」

協力：古代アメリカ学会

企画：関 雄二

南米太平洋岸に成立した古代アンデス文明。今から55年以上前に日本人のパイオニア的アンデス研究が開始され、以来、今日に至るまでさまざまな成果をあげてきた。とくにアンデス文明初期の形成期(前3000年～西暦紀元前後)と呼ばれる時代に焦点を絞った研究は、その時代に社会統合の中心的役割を担った神殿の建設とそこでの活動をじょじょに明らかにし、世界の古代文明のなかでもひじょうに珍しい発展過程を経てきたことを国内外に示してきた。本シンポジウムは、こうした研究の蓄積を基礎に置きながらも、権力の生成という新たな視点で、さらに高度な研究を推進すべく過去5年にわたって実施してきた科研費基盤研究(S)「権力の生成と変容から見たアンデス文明史の再構築」の総括として開催された。そこでは、ミクロ・レベル研究として、ペルー北高地に位置するパコパンパ遺跡の発掘調査データの解析を分野横断的に考察し、さらに周辺遺跡の研究成果と比較することで、権力の生成と発展に迫った。計13本の専門的な発表ながら、参加者は70名を数え、質疑応答や討論も活発に行われた。